

ASEAN グローバルプログラム に参加して

上 田 航太郎

Kotaro UEDA

機械システム工学科 2年

1. はじめに

2018年、8月28日から9月6日にかけての10日間、ベトナムのハノイ、シンガポールでのASEANグローバルプログラムに参加した。今回のプログラムの日程を表1に示す。

表1 プログラム日程

8月28日(火)	ハノイ着, オリエンテーション
8月29日(水)	栄光堂訪問, イオンモール散策 Rikkei Soft/NTQ 訪問
8月30日(木) 8月31日(金)	ハノイ工業大学で現地の学生と PBL および発表
9月1日(土)	博物館見学, 自由行動
9月2日(日)	シンガポール着 WASABI CREATION 訪問
9月3日(月)	南洋理工大学(NTU) 見学
9月4日(火)	Google 訪問, 若手ビジネスパ ーソン交流会, 加藤さん講演
9月5日(水)	自由行動
9月6日(木)	帰国

2. 参加目的

今回、このプログラムに参加した目的は、英語でのコミュニケーションスキルの向上、海外の人々とコミュニケーションをとることの大切さを知ること、そして、海外で仕事をされている方々との交流を通して海外で働くということはどういうことかを知る、これからのグローバルな社会で活躍していくにはどんなことをする必要があるのかを知ることであった。また私は今まで海外渡航の経験がなかったので、まず海外の様子を知るといことも目的の一つであった。

3. プログラムの内容

今回のプログラムにおいて様々な体験をさせていただいたが、表1に示したプログラムの中で、最も印象に残っている南洋理工大学の見学について、以下に詳しく述べる。今回、見学させていただいた南洋理工大学(NTU)は毎年トップレベルの大学としてランク付けされており、QS世界大学ランキングにおいて、2018年は総合11位であり、イェール大学(16位)、プリンストン大(13位)など欧米の最上位校を凌ぐ超エリート校である(ちなみに、2018年の東京大学のランキングは28位)。2017年に、それまで国内トップであったシンガポール国立大学(NUS, 15位)を抜きアジア一位となった。NTUは同ランキングのトップ50校のなかで最も早く順位を上昇させている大学であり、創立50年以内の大学のなかでは世界1位にランクされているという。実際、現地では到着後に昼食、自由行動というかたちで大学内を見て回った。フードコートではマクドナルドやSUBWAY、スターバックスなどの日本でも有名な飲食店が多数並んでおり、カフェなども多数あった。学生寮があることもあり、コンビニでは普通よりも豊富な品揃えに加えて、生活必需品なども多く売られていた。その後、Xie Ming教授の講義を現地の学生と一緒に受講させていただいた。そこで驚いたのが龍谷大学との授業風景との違いであった。そこではとても良い雰囲気での授業が行われており、教授から学生への一方的な授業ではなく、相互にコミュニケーションをとりながら行っていた。学生はとてもまじめな態度で授業を受けていた。当然講義は英語で行われるので、私はあまり理解することはできなかったが、トップクラスの授業を受けさせていただいたことは大変貴重な経験となった。さらに研究室の見学もさせていただいた。シンガポールでトップの大学というだけあって、設備や規模はすばらしく、スーパーマーケットなどで活躍するような、自動で品物を判別して掴むことのできるロボットアームや、地元の企業と協力して行う

水質調査用のマシンの開発や、3D プリンターを用いて製作した、1000 個以上の部品で作られた車、また研究室には、映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」でおなじみの「デロリアン」も展示されていた（こちらは娯楽用に製作し、実際走行しないらしい）。さらには有名な大企業であるロールスロイス社とともに飛行機のエンジンを開発し、実際に性能をテストするなど、どれも非常にレベルの高いものであり、またそれらを可能にする広大な土地、最新鋭の機器、予算、その全てに圧倒された。また、日本の企業から南洋理工大学の MBA で勉強されている、多田さん、小川さんと交流させていただいた。日本で有名な企業がお金をだして社員を学ばせるほどの価値があることに、とても驚いた。お二人のお話は大変興味深かった。大人である彼らも、海外の学生との価値観の違いなどで喧嘩することもあるという。お二人は学生時代、海外へ行くためにアルバイトをして、お金が貯まると海外へいくというとても活動的な学生だったらしい。とても魅力的なお話だった。話を聞いて、英語でコミュニケーションをとることは、海外で活動する上で基本となることに改めて気づかされた。その上で海外の方々もっている価値観や、考え方の違いを理解しようとするのが大切だと思った。

4. おわりに

今回のプログラムを通して、私の日本に限定されていた視野や考え方は、多少は世界に広げることができたと思う。私にとって初めての海外経験を通じて、ベトナムとシンガポールという2つの異なる国

を見て、学ぶことができたことはとても貴重な経験であることは言うまでもない。出発前は、全く英語が得意でない学生が海外で何ができるのか不安であった。案の定当初の目的の1つであった英語によるコミュニケーションスキルの向上はほとんど達成できなかったが、それ以上にたくさんの体験をすることができた。日本にいても絶対に学べないことを学ぶことができ、私がこのプログラムに参加した意味はあったらと思う。この10日間はあっという間で、あまりにも短いと感じ、また海外に行きたいと思うまでになった。このプログラムに参加したおかげで人生の選択肢がとても増えたように感じる。これから大学で学んでいく上で、どのように人生設計をするかしっかりと考えていきたい。また、「自分から行動する」ということの大切さが身にしみてわかった。今回のプログラムに参加するきっかけとなったのは、友人が参加するから、ただそれだけであった。海外に対して何の根拠もない恐怖を抱いていた自分が、自発的に参加することはまずなかっただろう。しかし、もし参加していなかったら、こうした成長の機会をもつこともなく、きっと後悔したと思う。そのように感じるほど今回のプログラムは自分の中で有意義であった。あと1年半で私は大学を卒業してしまう。そうすると今のように自由な時間はほとんどなくなってしまうだろう。学生の間にもっと世界を見て回るべきだ、自分のために時間とお金を使わなければと痛感した。最後に、このプログラムに携わった全ての企業の方々、先生方、大変貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。